

長寿の郷に

●25.2%と滋賀県内の市では一番の高齢化率を誇る長寿の郷をより喜びあふれるものにしていくために、小学校区や自治会に着目し福祉空間の整備を図っていくと共に、転倒防止や介護予防の取り組みを展開し、運動の習慣づくりに積極的に取り組めます。

●公共施設もバリアフリーに努め、朽木の森や今津総合運動公園などを皮切りに、ユニバーサルデザインの公園を順次作っていきます。

重要文化的景観行政へ

●重要文化的景観の地区指定を受けられるよう準備作業を進めます。

●豪雪で高齢化の進んだ地域は、景観や生活文化の面で最も価値あるところであり、特に高齢化率50%を超える地域は、高齢者の能力は高く現役です。それら地域の熱心な取り組みを顕彰する制度を創設し、機運を高めていきます。

※重要文化的景観：未来に残したい、人の生活が造り上げてきた風景。

●安全の確保、地域社会への信頼感、教育内容、施設の充実度などの向上を優先課題として学校教育、社会教育と地域を結んで、取り組んでいきます。

●青少年の文化・体育活動を積極的に支援します。さらに、スポーツ少年団や部活動などにおいて優秀な成績を上げ、県代表などで近畿大会や全国大会に出場する場合は、タイムリーに支援出来る制度を作り、旅費や強化活動費を助成するなど、伸びる芽を伸ばせるよう、体育・文化活動の積極的振興を図ります。

琵琶湖環状線と観光キャンペーン

●本年秋には琵琶湖環状線が開通し、新たな時代を迎えることから、観光協会、商工会と連携して、大いに観光面での誘客を図っていきます。

●湖西線の通勤・通学時間帯のダイヤ確保や、利便性の向上に向け、実効性のある要望をしていきます。

●JRR各駅のエレベーターの実現については、まず安曇川駅に平成19年度工事着手が出来るように協議を進めています。マキノ

自治への志

●高島市の1998となった自治会こそが、防災、福祉、教育などの皆であり、今後自治会未加入の世帯にも支えあいのネットワーク形成をお願いしていきます。

●自治会自治の振興と交流を図るため「高島市ふるさと自治大賞」の創設、表彰を行います。

●「未来に誇れるまちづくり活動実践大賞」を創設し、NPOや団体、個人を対象に表彰を行います。また、子ども審査委員会を設置し、子ども達の目から表彰する制度を検討します。

ないものねだりから、あるもの探しへ、「環の郷」創造への取り組み

●市民参加の楽しいあるもの探しの一貫として、高島の景観、高島の音、高島の風習、祭り、高島市民が歌い継ぎたい歌、高島市民の愛する花、鳥、木、建物、庭、そして、高島市にある食などを、風土工学を参考にして見える形にしていきたいと考えます。

●地域の72%を超える豊かな森林には、無限の力が宿っています。建築材料、炭・薪等の燃料、バイオマスエネルギー

駅は、駅舎改修と合わせて電源関係の資金を活用し実行出来るように方向づけていきます。他の駅は、合併特例債によって実現を考えています。

ローカル・トゥー・ローカル事業の発展的展開

●毎日の暮らしの中でエネルギーは90%以上、食糧も90%以上が輸入されており、海外製品も多く使われています。これからは、国内外という区別より、協力関係を結べる相手を創っていくことが大切であり、地方自治体もローカル・トゥー・ローカルで世界の国々と付き合える力が必要です。あるもの探しで足元を深く掘り下げるとともに、世界の心ある人々と手を繋ぎ、「エコツーリズム」や「SATOYAMAツアー」の展開を組み立てていきます。

●アドベリィ・SENKOTSUの取り組みに習います。

●英語版のホームページを切り口に海外への情報提供に努めます。

●アジアの観光客誘致の研究を始めます。

※SENKOTSU：扇子づくりの伝統的な地場産業技術をインテリア商品等へ活用しフ

等々、森林と共に生きる仕組みづくりに努めます。

●魚のゆりかご水田や不耕起栽培の取り組みなどに学び、一次産業を高島の魅力にできるよう取り組みの視野を広げて参ります。そして、修学旅行や研修・観光と結んでいきます。

「橋をかけよう」

●藤樹フォーラムを通して多くの人と交流を深める積極的な展開を心がけ、更に藤樹先生生誕400年に向け、一層市民が藤樹先生が目指されたことを理解し、実行出来るように取り組んでいきます。

●対人地雷廃絶の取り組みは、子どもたちが全国から世界へ、そして未来へ橋を架けていることを高く評価し、今年も支援します。そして、全国子どもたちが高島市を目指し学びに来るように育てたいと考えます。

●女性の参画を当たり前にし、公的な会議は最低でも30%は女性メンバーで構成します。

教育の高島

●保育園や乳幼児に至るまで、教育的なインシアチブを教育委員会に明確に位置づけ、指

ランスへPR、高い評価を受けたもの。

県版経済振興特区と営業本部

●「びわ湖・里山観光振興特別区域」の認定を受け中心となるJR近江今津駅・今津港周辺の湖岸や街並みを整備するとともに、市全体に広がる森林や里山の自然や景観を活かした観光振興に努めます。また地域プロデュース会社設立等による体系的な「6次産業の振興」を推進します。

●エコツーリズムモデル事業実施地区に選定されている魅力あふれる里地里山をフィールドとした特色ある観光振興施策を展開し、地域経済の活性化につなげていきます。

●高島市の資源を市民の生活の支えにしていく取り組みの実行部隊として、営業本部をより能動的な体制(営業開発室)にし、基幹産業である農業を基軸に、地産地消、食育等に取り組み、地元食材の素晴らしさへの理解を広めます。

●高島市にあるソフト、ハード、自然、人等々あらゆる資源をデータ化し、組み合わせ、相乗効果を生みだし、関係機関および民間企業と連携した市外への営業の道を探ります。